

3.11 希望の光

～希望のアルバム～



～ 3.11 希望の光 ～



東日本大震災から10年が経つ2021年3月11日に、改めて震災への備えと教訓を次の世代へ継承すべく、また未来への希望を込めて「3.11希望の光」と題したライトアップを行いました。

ご覧いただいた方々から、10年を振り返っての想い、未来への希望を込めた想いを寄せていただきましたので、それぞれの場所で見た3.11希望の光の写真と併せて公開いたします。

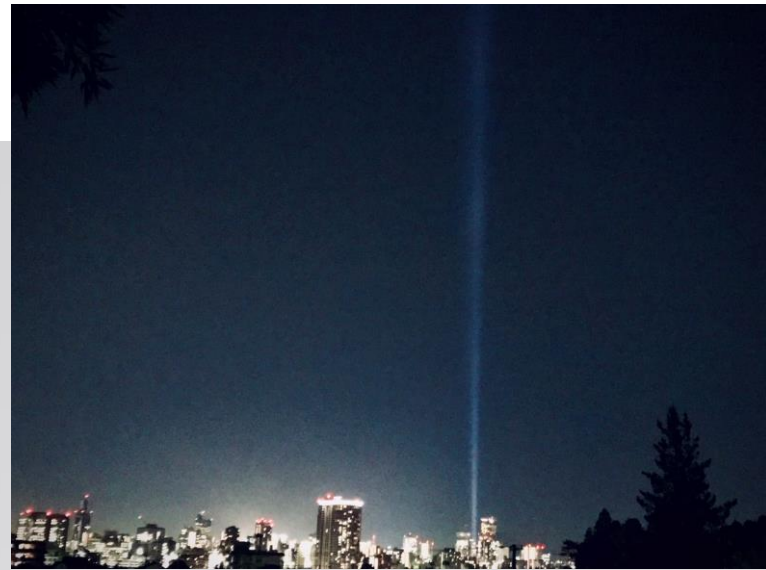
～ 3.11 希望の光 ～



震災当時は私は大学生で大阪の家電量販店にいました。何台ものテレビの画面が津波が襲ってくる瞬間を映していました。ただごとではないことを悟りました。逃げてと叫ぶ女性の声が今でも思い出されます。

それから私は仕事で宮城に配属となり、4年の月日が経ちました。震災後10年と言う節目に希望の光。その力強い光はたくさんの被災された方を勇気づけたのではないのでしょうか。

希望の光を「I」としてスマートホンのライトで「hope」と描き、長時間露光にして撮影しました。I hope. 皆さんの望みや私の望み。それぞれ思うことはあると思います。私は穏やかな日々が続いてほしいと願っています。



忘れることのできない3.11。
ただそばにいてくれることがどんなに力強かったか…
天と繋がった真っ直ぐの光に心を重ねて、これからも1日を大切に生きていきます。



1000年先まで伝えたい

～ 3.11 希望の光 ～

東日本大震災からもう10年、まだ10年。当時、私は19歳で、その状況を理解するには十分な年齢でしたが、まだ子供で怖さで手足が震え泣き叫んでいたのを思い出します。母と私は車中で夜を過ごし、あの時ほど怖さや不安に駆られたことはありません。そして10年後の今夜、ふと車から降りて見上げた空にまっすぐな光が差していることに気がつきました。初めはこの光が何を表しているか分からずネットで検索してみると追悼の光だと分かり、今こうやって文字にして十年後を振り返っています。当時は車の中でこれからどうやって生きていけばいいのか、明日はあるのか、と不安な気持ちでいっぱいでした。ちょうど先月も強い地震があり、またあの10年前の生活に戻るのかという記憶がふとよぎりあの不安や恐怖の記憶を思い出しました。人は時が全てを解決すると言いますが、きっと恐怖や不安は消えなくても大丈夫、この気持ちを共に生きていい、と感じました。10年後の今日、私たちはコロナ禍という状況の中でも”普通の生活“を送ることができています。私はあの時、皆にとって大変だった状況にも関わらずご飯を分けてくれたりシャワーを貸してくれたり友人や今まで名前も知らない関わりのなかった人達や、一緒に乗り越えられた家族に心から感謝しています。あの日私達に手を差し伸べてくれた人たちがいなければ私たちはこの大きな困難を乗り越えることはできなかったでしょう。これからもこの日のことを忘れずにそれを糧に生きていきます。こうやって過去を振り返る機会をいただいたことに感謝いたします。

It's been 10 years already since great east earthquake or still. 10 years ago, I was 19, it was old enough to understand what happened to us but not enough to handle the situation. The night of 11th March 2011, my mom and I had to stay in our car at exactly the same place where I found this beautiful glorious light when I looked up the sky tonight. I've never felt anxious and scared for the next morning. Last month there was a strong earthquake at late night, we were freaking out again like we are back to the life we have been through. People say time will solve everything but not really. This latest earthquake reminded us that we won't forget what happened ten years ago, and it's okay if you have the fear. After 10 years today, we are living like "normal life" with this pandemic situation. I'm truly grateful for my family, friends and even strangers who help us like sharing the foods, let us use their bathroom at the most difficult time for everyone. If those people take our hands, we won't be able to get through this. We live with 3.11 and never forget what we've been through. Thanks for letting me remind and sharing the thoughts here.



～ 3.11 希望の光 ～



あれから10年
随分と復興してきたのかもしれませんが
私たちの心も
強くなったかもしれません
でもまだ
「10年が経った」それだけなのです
来年も再来年も
3月11日はやってきます
10年が経ったから終わりではありません
その先の未来のために
私たちはこれからも
共に、前へ
イトマップ仙台さん



10年経ってもまだ続く余震に改めて震災の規模の大きさと地震への備えの大切さを認識させられました。
T.U.さん @青葉区一番町1丁目



震災後10年の今、コロナ禍の試練そして忘れた頃の余震。
忘れてはいけないことを改めて知らされた。
一本の光が天に向かって希望となる！
すばらしいイベントを間近で見ることができました。

～ 3.11 希望の光 ～



震災から10年。あの日、会社の人を乗せるために、いつもの関上街道ではなく、
仙台バイパスを通して帰宅したおかげで、今も生きてることに感謝しています。
津波のことなど、頭にもよぎらず、ただただ家族のもとに帰りたいという一心だったから、
同僚を乗せなければ、普通に津波に巻き込まれていたかもしれない。
津波で家を失くした兄夫婦もちゃんと生きてくれたことも感謝。
亡くなってしまった友達もいるから自分たちだけの無事を喜べないけど、
それでも生きていられたことに心のなかでそっと感謝する日。3.11



近くの散歩コースで天空を照らしてました



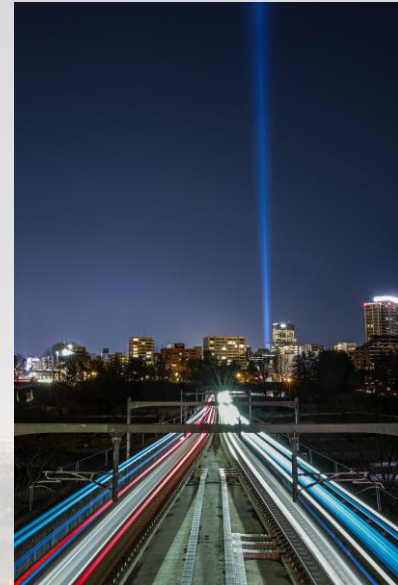
～ 3.11 希望の光 ～

自宅近くから、10歳の娘と見ました。
娘の誕生日で、震災から何年経つのか、石巻から
離れて何年経つのか分かります。
あの日は、11ヶ月でした。

津波がくると思い、揺れがおさまってすぐに泣き叫ぶ
娘を車に乗せて、日和山に向かいました。
運が良く、助かった命。
娘に「亡くなった人の分も頑張ろうね。」と言いました。



もう二度と誰も悲しみませんように。
ssさん @青葉城



～ 3.11 希望の光 ～



名取川の土手から見た
3.11 希望の光

こちらからも見えました。

10年前の日記をみかえしてみると
がんばっていた毎日が綴られていました。

あんなことは二度と起きてほしくないけど

あの日々を
乗り越えてきたからこそ
今の自分がある

これからの10年
後悔ないように生きる



荘厳な光の柱を数多の御霊が空に昇っていくように見え、手を合わせずにはいられませんでした。
あたりまえの日常を過ごせる事への感謝を改めて心に刻みました。

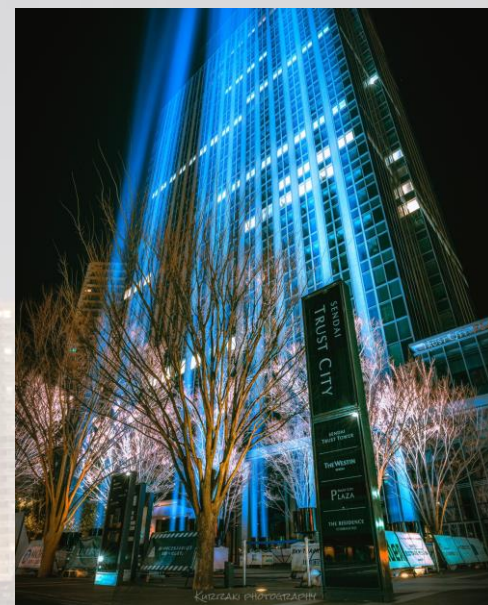


仙台で生きることを確認した日。
光の帯に、キラキラと。妖精が舞っているようでした。

～ 3.11 希望の光 ～



震災から10年が経ち、改めて想うことは絶対に忘れてはいけないということです。この希望の光の様に亡くなった方達とは心で繋がって、天まで届いてる。そう信じて、この先の未来へ向かって逞しく生きていきたいと強く思います。

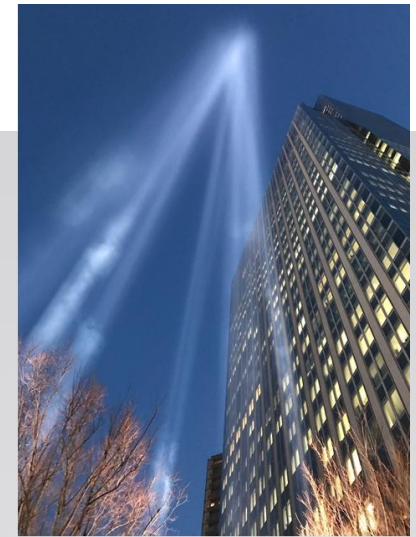


10年が経ちましたがとても早く感じました。この希望の光という名前のように、これから震災のことを忘れず希望を持って未来へ向かって歩いていこうと思いました。



「3.11希望の光」ありがとうございました。
ほんとに涙がでました。

～ 3.11 希望の光 ～



どんな災害が起きても、誰一人取り残さない世界を、
強く優しく逞しい東北の地からつくっていきましょう！



震災からあつという間の10年。
辛かった事や楽しかった事沢山あった
けどこれも今生きてるから感じられる事。
亡くなった友人の分まで1日1日を大切に悔いのな
い人生を生きていく。

3月11日、震災の日ですが我が家の次男の誕生日でもあります。
今年で17歳になりました。震災の時は小さくて家族に守られていましたが
17歳になった今、先月の地震の時は散らかった物の片付けなどを率先してやってくれました。
とても、頼もしくなりました。この10年は大きな大きな10年です。
@近所から見た希望の光。



～ 3.11 希望の光 ～

震災当時高校生だった私は、宮城県に住んでいませんでした。

揺れすらない程東北と離れたところに住んでいた私は当時高校生でした。
正直なところ最初の数日、毎日のように流れるニュースにうんざりしていました。
毎日速報や緊急ニュース、見たいテレビ番組が見れずコロコロ変わる番組表。
まだまだ子供だった私は、事の重大さに気付いていませんでした。日本のどこか遠い所で、地震があった。位の認識です。

数日が経ちようやく事の重大さに気づき始めた私は、日に日に増えていく死者・行方不明者の数、押し寄せる波の映像、流された車から息絶えた母を救出するのを見守る幼い子供の姿…
次第に生々しく伝わる報道に息を飲むようになりました。津波の映像に背筋が震え、泣き叫ぶ遺族の方の話に共に涙しました。
生きている事の有難みを、スッと理解した瞬間も多々ありました。自分でなくて良かったと、素直に思ってしまった卑怯な自分も居ました。

何か出来ることは無いかと思いながらも何も出来ず過ごした学生時代。せめてもと、毎年の黙祷だけは欠かさず、東北の方を想いながら捧げました。

20歳を超え、縁もあり仙台に引越して来た時にはビックリしました。
想像の何倍も、素敵な場所だったからです。街中も地方も活気の溢れ、優しい人に溢れていました。そんな人情溢れるところだと知ってからは、ある意味夢を見るような気分で、震災に関する様々なところに赴きました。
確かに、ここで震災があった。津波があった。たくさんの人が亡くなった。と、資料を見て知る度に心がキュッとしました。

私はそのまま宮城で結婚し、出産をしました。まだまだ、元のとおりになってないことも沢山あるのですが、たくさんの笑顔溢れる宮城県に永住することを決めました。

これからはここが私の故郷になります。
10年目という節目を、この場所で自らの肌で感じながら迎えられたこと、大きな意味があると思います。

空に伸びる一筋の真っ直ぐな光を、おうちの庭から眺め、これからの東北の発展を願いました。

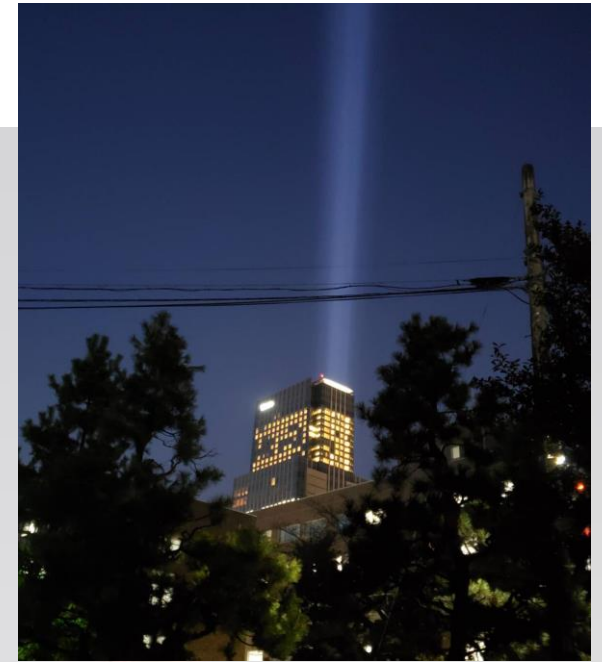
今はコロナとの闘いもありますが、人々の活気溢れる東北であたたかい笑顔がたくさん溢れるよう微力ながら努力していきたいと決意した2021年3月11日でした。



～ 3.11 希望の光 ～



短いようで長い、長いようで短い10年でした。震災当時は
独身だった私は結婚して現在は二児の父親となりました。
多くの方々が亡くなり悲しんでいることは忘れず、今を生き
ている私は子供達が悲しい思いをせず、幸せに暮らせるよ
うに精一杯生きようと思っています。
@自宅マンションのベランダ



2021.3.11
祈り、ただそれだけです。
東北大学片平キャンパスさくらホール前より。



当時真っ暗だった
ありがとう

～ 3.11 希望の光 ～

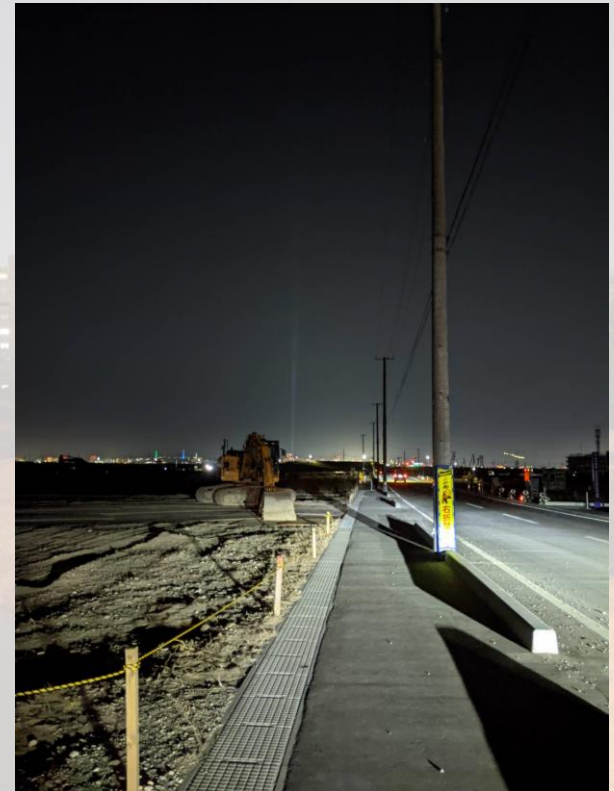


福島県で被災し、原発事故で死の絶望を感じたあの日。
でもそれでも生きて大切な家族が出来ました。
今また未曾有のパンデミックに襲われている日本人ですが、
きっとそれすらも糧にして未来に進めることを信じています。
被災し亡くなられた方達のご冥福をお祈り致します。



ベガルタと共に希望の光に!!
LKVさん @錦町

私はまだ2才だったので覚えていないんですけど、
あの時の感覚はまだおぼえています。
以前起こった6強の地震でも気分が悪くなってしまいました。
だからこそ震災のことを未来に伝えていきたいと想っています
未来ではこんな恐ろしい災害がないことを願っています。



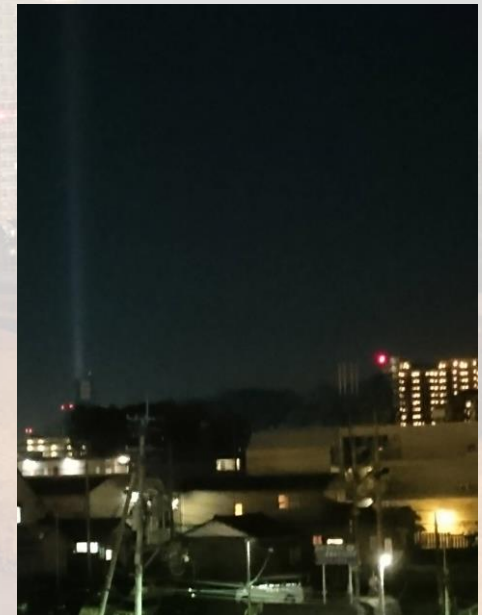
～ 3.11 希望の光 ～



突然やってくる災害にいつも備えること、また、いつもおはようおやすみなさいと言える当たり前の日常生活に感謝することを忘れてはいけないと思いました。



当時私は高校生でした、今はこの東北の復興の為に地元企業で一生懸命に働いております。今後も東北、宮城、仙台から元気を届けていきたいです！



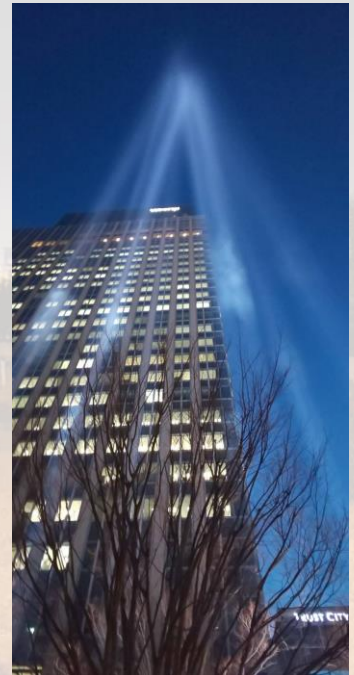
2か月後に調査のために仙台に来て2年後に仙台に転勤。毎年この日が静かになるのが現地にいないと感じられないと思っています

～ 3.11 希望の光 ～



あふれるほどの星に押しつぶされそうになりながら、信号が消えた真っ暗な国道4号線を、テールランプのラインに乗り、白石から5時間かけて仙台に戻ってきたとき。真っ暗闇の街で、トラストシティと河北新報社だけが光っていました。あの光を見たときの気持ち、忘れません。

小さい頃の記憶はだんだんと薄くなっていってしまいましたが、震災の記憶はとても鮮明に覚えています。ご近所さんとヒヤヒヤしながら過ごした夜。高台にすんでいたのて車の中のテレビで津波の被害を知りました。同じ県内、ここから数キロ先で起こっていることなんて全く信じられませんでした。10年経った今でも余震があるので気を付けなくてはならないと思いました。



～ 3.11 希望の光 ～



10年前、亡くなられた方や辛い思いをされた方の気持ちを乗せて、明るい未来に続く光のようでした。
一年毎にこの光が増えていけば、復興の意義を増すとともに皆が一つになれるとも思いました。
仙台トラストさんの素敵な、計らいに感動です！ ペロ太郎さん @向山



希望の光、見ました。画像に写し込んだのは、「忘」の漢字を逆さにしたものです。忘れるを反対にして忘れないという意味を込めました。震災の被害、教訓、世界中からの支援。みな忘れてはならないものです。10年という節目を迎え、忘れないことの大切さが問われるのはこれからです。



～ 3.11 希望の光 ～

あの日から10年。
長かったような、短かったような不思議な感覚です。
あの日を境に世の中が大きく変わり、日常や当たり前のことが本当に幸せだったのだと感じました。
復興に向けて歩みだし、新しい日常が始まりましたがあの日のことは決して忘れてはいけない、後世に伝えていかなければいけないことだと思います。これから支えていく震災を知らない子供たちにも、命の大切さ、人の暖かさを伝えていきたいです。
希望の光を見て、そのことをより一層強く感じました。



10年前、地元千葉の高校にいました。
電車が止まり2時間歩いて帰ったり、家族となかなか連絡がとれず心配だったこと、母が津波の映像に涙していたことなど、明確に覚えています。
今年度より宮城に住んでいて、今日は沿岸部で仕事でした。
様々な場所で黙祷する人達を見ました。
ある方に話を聞くと、そこは津波で人が亡くなった場所など教えてもらいました。
彼らの10年前の記憶を聞いてみたいと思いました、口にできませんでした。
いつか、聞いてみたいです。
他人事じゃなく、自分事で考えて少しでも共に前に進みたいです。
10年後は、どこで何を思っているのか。
恥じないように生きる！